

県政モニターアンケートの結果

県では、大気環境計画の見直しにあたり、大気環境に関する意識調査を実施した。

1 調査概要

- (1) 実施時期 令和4年2～3月
- (2) 調査方法 郵送または電子申請によるアンケート調査
- (3) 調査対象 県政モニター 197名
- (4) 回答数 179名 (91%)

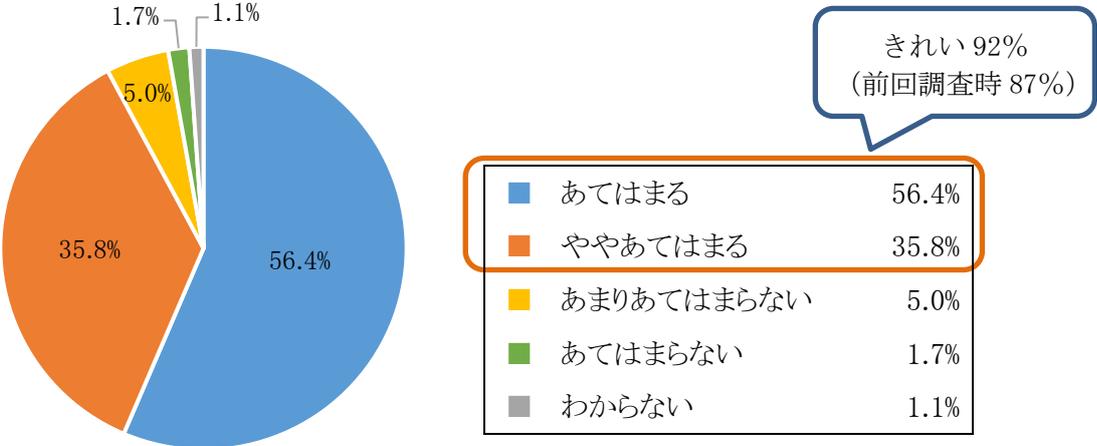
2 調査結果の概要

(1) 晴れた日の空のイメージ

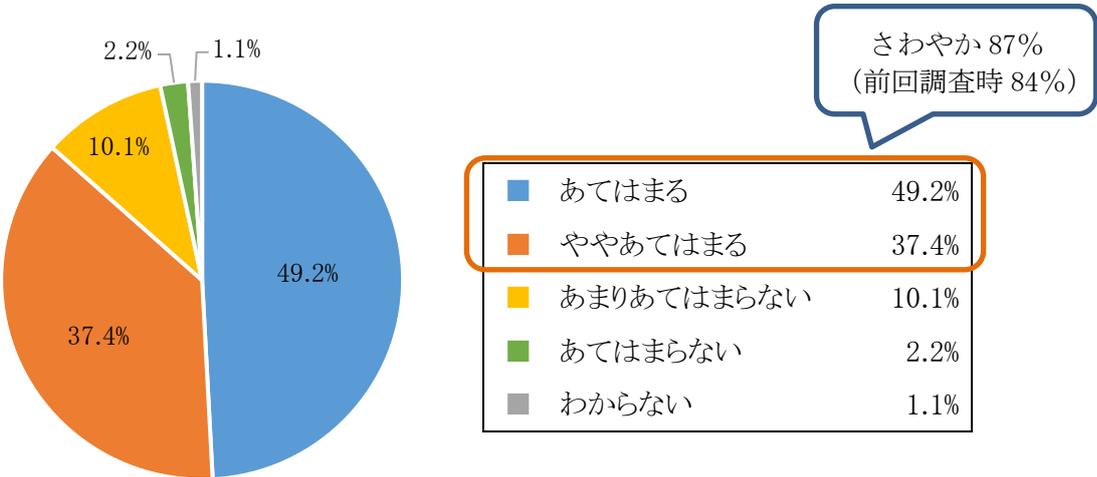
本県の晴れた日の空のイメージは、約9割の人が「きれい」、「さわやか」と感じており、その割合は6年前と比べて高くなっている。

一方、「10年程前と比べて」きれいになったかどうかは「わからない」との回答が多く、PM2.5など大気環境の改善があまり実感されていない状況であった。

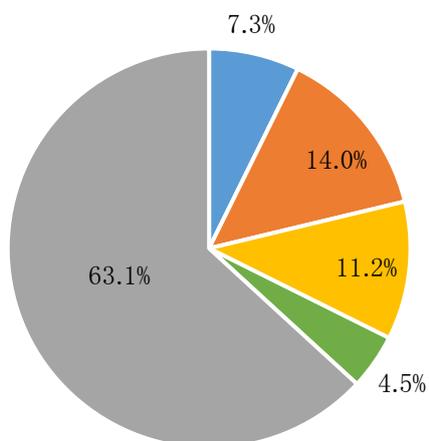
① 「きれい」



② 「さわやか」



③ 「10年程前と比べて」



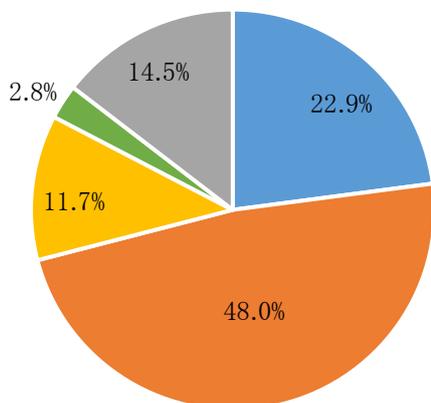
きれいになった 21%
(前回調査時 18%)

とてもきれいになった	7.3%
ややきれいになった	14.0%
ややきたなくなった	11.2%
きたなくなった	4.5%
わからない	63.1%

「わからない」の意見が多い

(2) 大気環境の満足度

本県の大気環境の現状については、約7割の人が「とても満足」、「やや満足」と感じている。

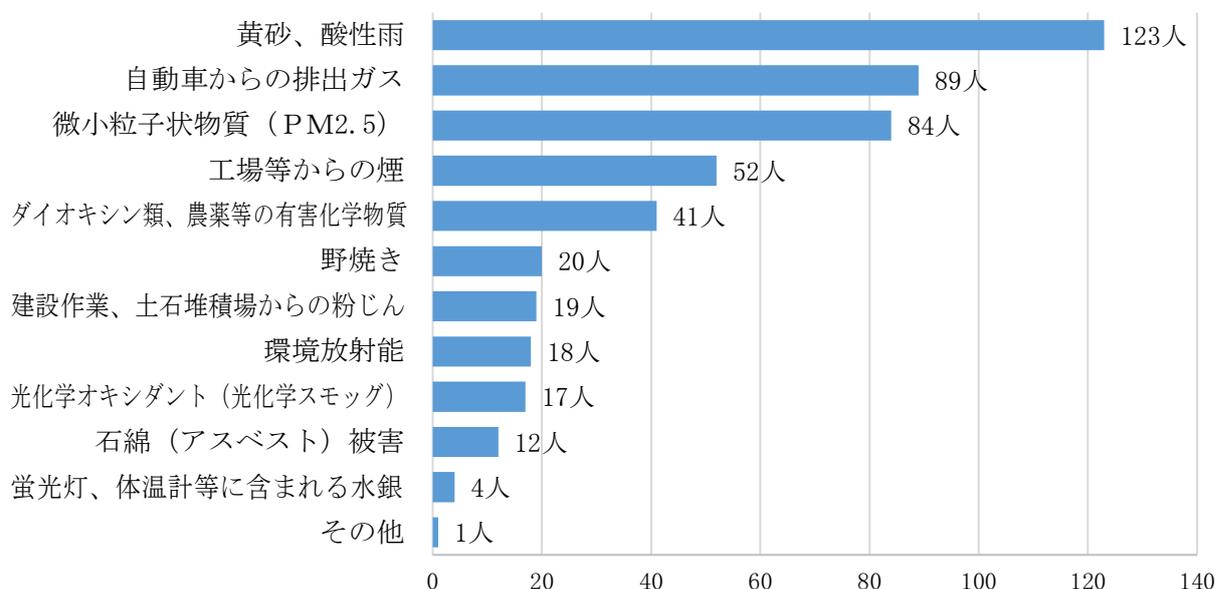


満足している 71%

とても満足	22.9%
やや満足	48.0%
やや不満	11.7%
とても不満	2.8%
わからない	14.5%

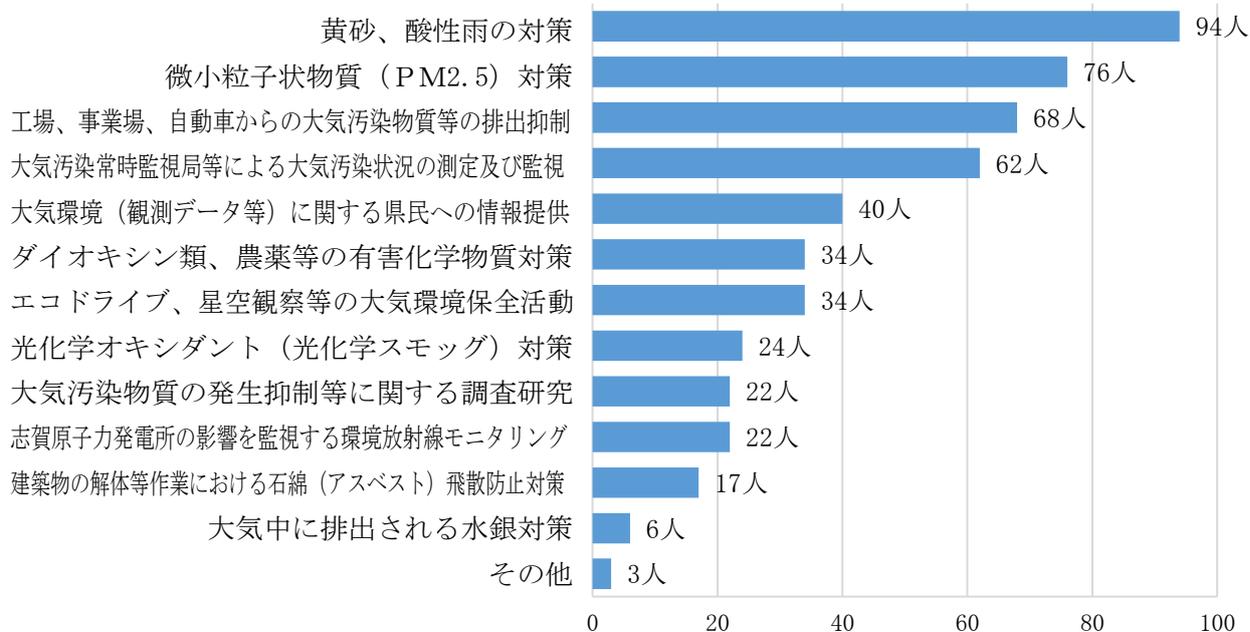
(3) 大気環境についての関心

大気環境に関する問題のうち、関心のあるものについては、「黄砂、酸性雨」、「自動車からの排出ガス」、「微小粒子状物質（PM2.5）」の順に多くなっている。



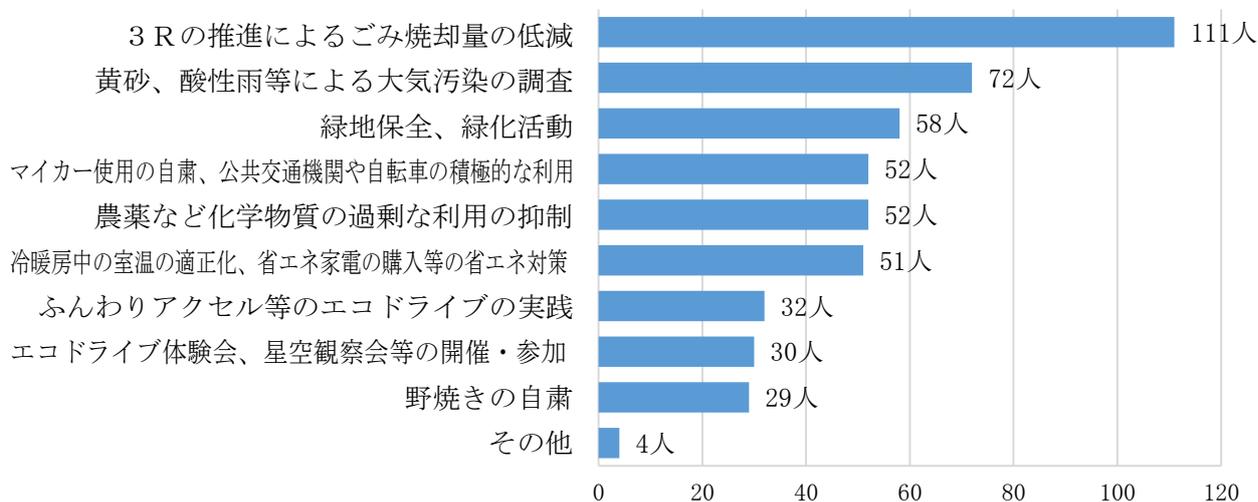
(4) 充実を希望する大気保全施策

大気環境計画の見直しにあたり、充実を希望する大気保全施策については、「黄砂、酸性雨の対策」、「微小粒子状物質（PM2.5）対策」、「工場、事業場、自動車からの大気汚染物質等の排出抑制」の順に多くなっている。



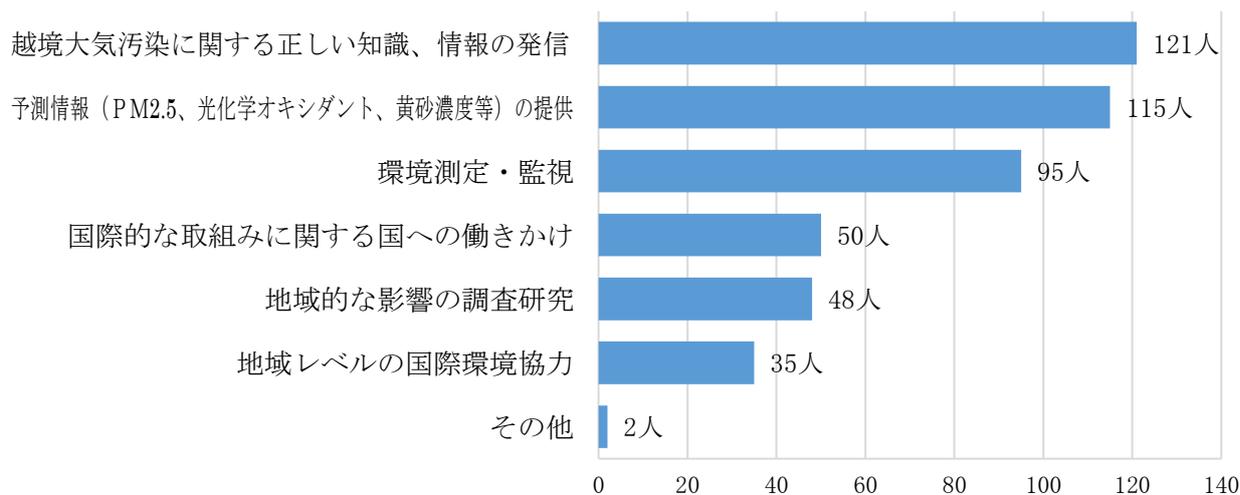
(5) 県民や民間団体による大気環境保全活動

大気環境の保全に関し、県民や民間団体で取り組んだ方が良いと思う環境保全活動については、「3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進によるごみ焼却量の低減」、「黄砂、酸性雨等による大気汚染の調査」、「緑地保全、緑化活動」の順に多くなっている。



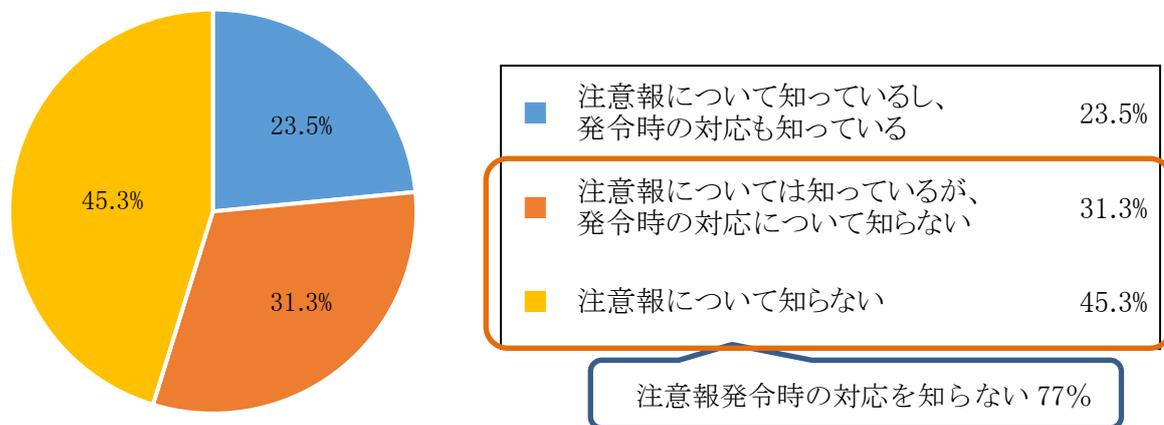
(6) 地方公共団体に求められる越境大気汚染対策

他国で発生した大気汚染物質が国境を越えて日本に飛来してきていること（越境大気汚染）については、約9割の人が知っており、地方公共団体に求められる取組みについては、「越境大気汚染に関する正しい知識、情報の発信」、「予測情報（PM2.5、光化学オキシダント、黄砂濃度等）の提供」、「環境測定・監視」の順に多くなっている。



(7) 光化学オキシダント注意報発令時の対応

光化学オキシダントの濃度が一定レベルを超えた場合、県が「光化学オキシダント注意報」を発令し、健康被害を防止するため、屋外での活動や自動車の運転を控えるなどの対応を呼びかけていることについては、約8割の人が認識していない状況であった。



(8) 地方公共団体に求められる光化学オキシダント対策

光化学オキシダント対策として地方公共団体に求められる取組みについては、「光化学オキシダントに関する正しい知識、情報の発信」、「光化学オキシダント注意報発令時の迅速かつきめ細やかな情報提供」、「発生源等の実態把握のための調査研究」の順に多くなっている。

